

News Letter

■2013年10月3日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

授業科目でPBLを導入する教員へ教材開発費・授業開発費を支援する「PBL教育支援プログラム」に、本年度は11件が採択されました。本号では、シリーズ第8回として、学生総合支援センター川島一晃先生による「AI -人と組織を生かす発想法-」の報告をします。

2012年度開講 「PBL教育支援プログラム」成果報告 (8)

「AI -人と組織を生かす発想法-」

導入した科目の概要

“AI -人と組織を生かす発想法-”は共通教育における主題「生きる力とキャリア形成」に位置する通常科目で、アプシエーティヴ・インクワイアリーという肯定的な資質に着目する思考法を体験的に学ぶことを目的とした演習形式の科目です。

学生の到達目標

学生は講義終了時に、①自分と他者の「良さ」を認めることができること、②前向きな態度を持つことができること、③他人の意見を尊重することができること、④異なった意見を調整することができること、⑤建設的な意見を出そうと心がけることができること、の5点の事柄について到達できることを目標に設定しました。

PBLを導入した意図・目的

本講義は「三重大学の教育における強みとは何か」をテーマに、すでにある三重大学の教育・支援の強みの発見と、それに立脚するこれからの三重大学の姿を学生自らが提案することが演習の内容として設定されています。学生はグループに分かれ、相互にディスカッションしながらプロジェクトを進めることから、プロジェクト型PBLとして展開することが可能と考え導入いたしました。

内容

表1に本講義の内容を示します。大まかには前半の2回でアプシエーティヴ・インクワイアリーとは何かについての概論的講義を行いました。しかし、この講義のセッションにおいてもペアインタビューの

表1 本授業における各セッションの概要

	活動の内容	詳細
第1回	アプシエーティヴ・インクワイアリー概論①	アプシエーティヴ・インクワイアリーで大切にしている視点の紹介
第2回	アプシエーティヴ・インクワイアリー概論②	アプシエーティヴ・インクワイアリーを実践した事例の紹介
第3回	アプシエーティヴ・インタビュー (ペア・インタビュー)	三重大学での学びの中の「最高の体験：最も学べた瞬間・良かった体験」について相互に語り合い、インタビューし、インタビューガイドに内容を聞き取る。
第4回	「発見」のワーク	グループを構成し、グループに前回のインタビューの内容を紹介する。グループで共有されたストーリーから、三重大学の教育の強み（ポジティブ・コア）を一枚の絵に表現する。
第5回	ポジティブ・コア発表会（授業内発表会①）	前回の活動でまとめられた「ポジティブ・コア」を素材に、内容を全体に向けて説明する報告セッション。
第6回	「夢を描く」ワーク	各グループで作成されたポジティブ・コアを発展させて、3年後の理想の三重大学の姿を描き出す。グループで4コマ程度のストーリーにまとめる。
第7回	Dream Workshop発表会（授業内発表会②）	前回の活動でまとめられた三重大学の将来ビジョンを、全体に向けて説明する報告セッション。
第8回	講義 リフレーミングについて考える	肯定的な視点の一つとして、「リフレーミング」という心理的技法に関する演習
第9回	「デザイン」のワーク①	これまで取り組んできたグループのポジティブ・コア、将来ビジョンを「具体的なプロジェクト」に進めていく上でのミッションを明確にした宣言文を作成する。
第10回	「デザイン」のワーク②	前回の活動で作成した宣言文を、さらに精緻化すべく言葉のワーディングや表現を再検討する。
第11回	「実践」のワーク①	グループで、将来ビジョンの実現に必要なプロジェクトを計画する。グループの中でプロジェクトチームを複数設置し、さらに小グループで内容を検討する。
第12回	「実践」のワーク②	前回の内容をグループで共有し、グループとしてのプロジェクトをまとめていく。
第13回	発表会準備	最終成果発表会に向けて、これまで取り組んできた資料を材料に発表準備を行う。
第14回	最終成果発表会（授業内発表会③）	各グループから、①自分たちが見出した三重大学の強みの紹介、②そして描いた将来のビジョン、③そこに至るべきミッション、④そして実現までのプロジェクト案の提案を全体に向けて報告。
第15回	振り返り	これまでの取り組みを振り返り、グループで体験を共有する。

ワークを導入し、講義で紹介された事柄を留意しながら、実際にペアで実践する時間を設けました。4回以降は、所属ができるだけ分散するようにグループを構成し、そのグループ単位で「発見」「夢を描く」「デザイン」「実践」の各ワークを順次進めました。各ワークの後には授業内発表会を設け、全体に向けてグループの成果を発表する機会を設定しました。なお、発表会では他のグループの発表に対して、設定されたグループが感想コメントをmoodleに投稿するようにして、発表の良かった点、今後より向上すると思われる点など相互に刺激を与えるよう工夫しました。

グループでの取組みにおいては、毎回の活動終了時にグループ活動のふりかえりシートを記入させました(表2)。

成果

どのグループも扱っている素材は共通するものが多々見受けられましたが(総合大学であること、環境推進大学であること、4つの力、キャリア教育など)、その表現については構成メンバーの個性を十分に活かした形でワークを進めていました。それぞれの得意な分野で役割分担をするなど、グループ内での取組みの様子も観察されました(図1、図2)。授業者やSA(スチューデントアシスタント)の学生が介入することもありましたが、基本的に多様なアイデアや様々な視点からの意見も排することなく、どのように活かすかという視点でグループの取組みを進めていくことができたと思われます。授業内発表会の発表も経験を重ねる程、堂々とプレゼンをすることができ、また発表の際の工夫についても他グループからの指摘を反映するよう工夫をこらすグループや事前にリハーサルを行うグループなども見受けられました。

今後の課題

本講義では、すでにある「強み」に焦点を当てることで、良さに立脚した将来ビジョンや具体的なプロジェクト案の提案までは扱いますが、実際に実行する点には至りません。元来このような思考法は実施することが一番大切ですので、本講義を発展させ、実際にプランニングした内容を実践してみる段階まで深めることが今後の大きな課題であると考えます。

(川島一晃)

表2 グループ振り返りシート

振り返り POINT1：仲間へのサポート
1：私は、仲間をそっとサポートしようと思った。
2：私は、仲間をそっとサポートする方法を考えた。
3：私は、仲間をそっとサポートしようとして少し試みた。
4：私は、仲間をそっとサポートできた。
振り返り POINT2：活動へのコミットメント
1：私は、仲間との活動に参加しようと思った。
2：私は、仲間との活動に参加する方法を考えた。
3：私は、仲間との活動に参加しようとして少し試みた。
4：私は、仲間との活動に積極的に参加できた。
振り返り POINT3：独自の発想度
1：私は、活動の中でオリジナルな発想をしてみようと思った。
2：私は、活動の中でオリジナルな発想をする方法を考えた。
3：私は、活動の中でオリジナルな発想しようとして少し試みた。
4：私は、活動の中でオリジナルな発想を提供できた。
振り返り POINT4：元気づけ度
1：私は、活動の中で仲間を元気づけようと思った。
2：私は、活動の中で仲間を元気づける方法を考えた。
3：私は、活動の中で仲間を元気づけようとして少し試みた。
4：私は、活動の中で仲間を大いに元気づけた。

本日の MVP：〔 〕

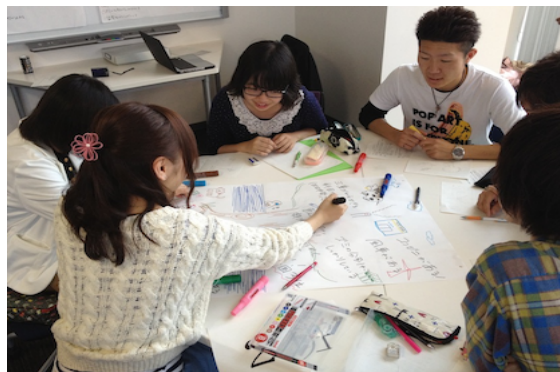


図1 活動の様子



図2 学生の作品(三重大学のポジティブ・コア)